

第101期 中間報告書

2024年4月1日

2024年9月30日

Contents

株主の皆様へ	P.1
セグメント別概況(連結)	P.3
トピックス	P.5
連結財務諸表	P.7
会社情報・株式情報	P.9



平素は格別のご高配を賜りありがたく厚く御礼申し上げます。
当社グループはこの9月30日をもちまして、第101期の中間連結会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）を終了いたしましたので、業績について概要をご報告申し上げます。

当中間連結会計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、半導体製造装置の需要が徐々に戻りつつあることや、半導体製造工場建設に伴う設備工事関連需要の増加、及び防衛力整備計画の大幅な拡充による航空宇宙関連機器の需要活況等で堅調に推移いたしました。

このような景況の下で当社グループといたしましては、半導体市場の本格的な需要回復を見据えて新工場の稼働準備を進め、航空宇宙分野においては、防衛・宇宙関連製品の開発に注力し、受注拡大につなげてまいりました。

次世代ビジネスに関する取組としては、再生医療に用いられる高品質な細胞を安定して製造・供給する役割を果たす自動細胞培養装置「CellQualia™（セルクオリア）」を初納入し、次世代の医療として期待の高い再生・細胞医療分野への参入に向けて大きく前進いたしました。

サステナビリティ推進活動の一環である人的資本投資につきましては、障がいのある子どもを育てる従業員が働きやすいよう短時間勤務制度を拡充したほか、本社オフィスの大規模な改装を実施するなど、労働環境を整備いたしました。

企業集団の連結業績につきましては、受注高は723億0百万円（前年同期比34.8%増）、売上高は517億53百万円（同10.6%増）となりました。損益面につきましては、経常利益は59億27百万円（同76.2%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は42億79百万円（同83.1%増）となりました。

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、海外における地政学リスクや政情不安、中国景気の動向などが国内景気を下押しするリスクはあるものの、半導体分野においては、2025年以降の本格的な市場回復に向けて回復基調が継続し、また、航空宇宙分野においては、防衛力強化に向けた需要が堅調に推移することが期待されます。

このような情勢の中で当社グループは、当事業年度における過去最高益の達成、かつ、最終年度となる中期経営計画「SINFONIA NEW STAGE 2024」で掲げる目標を達成すべく、取組を進めてまいります。

成長事業と位置付ける半導体分野においては、今後注目される半導体後工程搬送システム（自律走行ロボット）の実用化に取り組みとともに、産業用で培ったDDモータ等を半導体製造装置に活用した製品のユニット化・システム化を推進するなど、従来のウェーハ搬送機器に加え、半導体製造装置関連の製品メニューをさらに拡充し、販売拡大に注力してまいります。

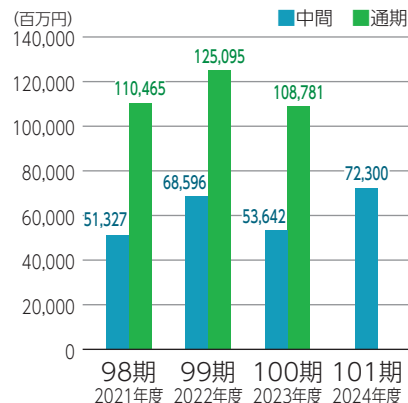
企業理念

「一歩先を行く技術」
「地球を大切に作る心」
「思いやりのある行動」

私たちはこの3つを大切に
人から宇宙まで

豊かな暮らしと社会の発展に貢献します。

受注高



基盤事業の一つと位置付ける航空宇宙分野においては、増産に向けて体制整備を進めるとともに、生産効率化を推進してまいります。また、事業領域拡大に向けて、ロケット関連製品で培ってきた宇宙環境対応技術を展開し、次世代の宇宙・衛星ビジネスに向けた研究開発を進めるとともに、新商品の提案活動を推進いたします。

連結子会社であるシンフォニアエンジニアリングにおいては、本年4月にS&Sエンジニアリングと合併し、エンジニアリング事業を強化いたしました。同社の工事施工能力とエンジニアリング力を最大限活用し、半導体製造工場向け搬送設備工事及び当社製品のアフターサービスをより強化し、グループ一丸となって成長事業と基盤事業の拡大に取り組んでまいります。

サステナビリティに関する取組としては、2023年に公表した「パートナーシップ構築宣言」の内容を遵守し、引き続きサプライチェーン全体の共存共栄を図るとともに、脱炭素に貢献する技術開発及び生産現場における温室効果ガス排出量削減等に取り組むなど、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

これからも、株主の皆様、顧客の皆様から評価していただけますよう、さらに企業価値を高め、成長し続ける企業集団となるべく、グループを挙げて努力を重ねてまいります所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長

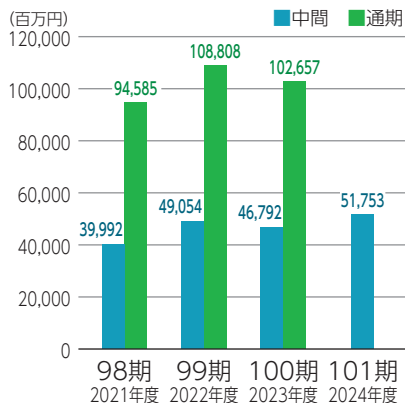
武藤 昌三

代表取締役社長

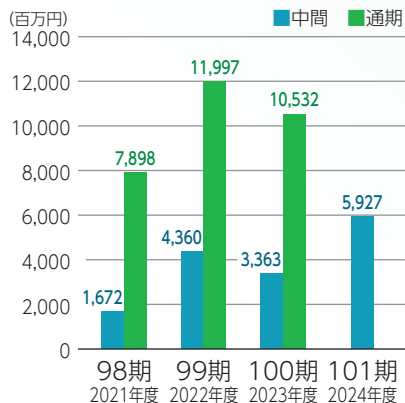
平野 新一

2024年11月

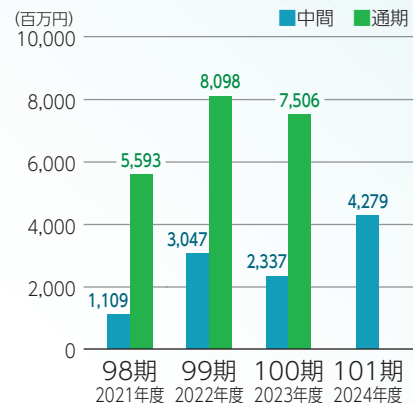
売上高



経常利益

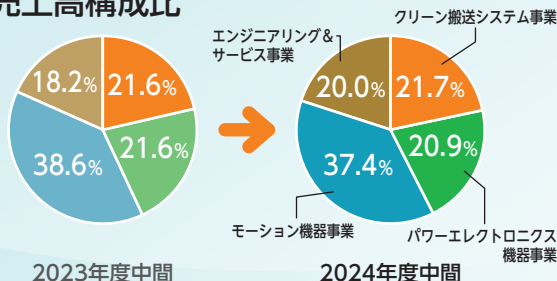


親会社株主に帰属する中間 (当期) 純利益



セグメント別概況(連結) Overview by Segment

売上高構成比



当上半期におけるセグメント別概況は以下の通りです。

クリーン搬送システム事業

受注高	122億20百万円	(前年同期比 24.5%増)
売上高	112億23百万円	(前年同期比 11.1%増)
営業利益	16億 3百万円	(前年同期比 40.5%増)

半導体メーカーの在庫調整が進みつつあることから、受注高は122億20百万円(前年同期比24.5%増)となりました。売上高は112億23百万円(同11.1%増)となり、損益面につきましては、売上高の増加により営業利益は16億3百万円(同40.5%増)となりました。



クリーン搬送機器

精密なデバイス加工精度と高度なクリーン搬送技術が求められる半導体製造工程において、世界のトップブランドとして信頼を集めています。大気搬送技術はもちろん、独自開発のN₂パーージ機構を持つロードポートや真空搬送技術で、より微細化と歩留まり向上の要求が高まる半導体メーカーの期待に応えています。

モーション機器事業

受注高	356億68百万円	(前年同期比 89.5%増)
売上高	193億57百万円	(前年同期比 7.1%増)
営業利益	19億62百万円	(前年同期比 80.4%増)

防衛省向け電装品等の増加により航空宇宙関連機器が増加したことから、受注高は356億68百万円(前年同期比89.5%増)となりました。売上高は193億57百万円(同7.1%増)となり、損益面につきましては、売上高の増加により営業利益は19億62百万円(同80.4%増)となりました。



航空宇宙

我が国唯一の航空機用電源システムメーカーとして、発電機をはじめとした航空機用電装品等を提供。また、ヘリコプター用レスキューホイストなど人命救助に役立つ製品からロケット用制御システムなど宇宙分野で活躍する製品まで幅広く提供しています。



大型搬送システム

巨大な航空機の牽引をはじめ、乗客の乗り降り、貨物の搬入搬出を担う空港用地上支援車両など、空港運営に不可欠な重量物搬送を行う特殊車両を提供。さらに、港湾、倉庫、造船所における超重量物搬送で活躍する産業用特殊車両など、用途に特化した各種車両を提供しています。



モーションコントロール機器

産業用電磁クラッチ・ブレーキからOA機器用マイクロ電磁クラッチ、自動車用電磁クラッチ、自動車用制振装置、鉄道用ブレーキ、建設機械用コントローラ、産業用サーボアクチュエータなど、豊富なバリエーションを提供。様々な機器の動作制御に関わるモーションシステム製品を幅広く提供しています。



プリンタシステム

アミューズメント施設や街中で見られるシールプリンタやカードゲーム機、各種プリントサービスに使われている昇華型プリンタを提供。世界初の両面プリンタやツインヘッド方式によるホログラムプリンタを開発するなど、プリント&ビジュアル分野の可能性を広げています。

パワーエレクトロニクス機器事業

受注高	118億56百万円	(前年同期比 13.8%減)
売上高	108億4百万円	(前年同期比 7.2%増)
営業利益	10億86百万円	(前年同期比 765.8%増)

上下水道施設向けの電気設備及びEV向けを中心とした自動車用試験装置が減少したことから、受注高は118億56百万円(前年同期比13.8%減)となりました。売上高は、受注残を着実にこなしていることから、108億4百万円(同7.2%増)となりました。損益面につきましては、売上高の増加により営業利益は10億86百万円(同765.8%増)となりました。



社会インフラシステム

上下水道の監視制御システム、道路管理用電気設備、さらには再生可能エネルギー発電装置を核とした小規模スマートグリッドシステムなどを提供。安心と快適、そして省エネルギーを実現しながら信頼できる社会インフラを支えています。



振動機器

振動機器のトップメーカーとして、食品・化学・リサイクルなど、あらゆる業界へ振動コンベヤ等を提供。また、スマートフォン等に使われる微小部品からネジなどの大形部品まで様々な生産・加工ラインにおける部品供給・整列搬送システムを提供しています。



産業インフラシステム

液化天然ガス搬送用のサブマージドモータ、資源リサイクルで金属ハンドリングを効率化するリフマグ®、高度な金属材料開発を実現する超高真空溶解炉、さらには航空機駐機中のCO₂排出量を削減するGPUなどを提供し、持続可能な未来の実現に貢献しています。



自動車用試験装置

スピーディーな開発や安全性が求められる自動車産業において、衝突試験装置等の各種試験装置・検証装置を数多く提供。ハイブリッド自動車・電気自動車など、時代の要求に応える最先端自動車の開発に貢献しています。

エンジニアリング&サービス事業

受注高	125億54百万円	(前年同期比 11.6%増)
売上高	103億68百万円	(前年同期比 21.6%増)
営業利益	10億94百万円	(前年同期比 85.2%増)

台湾を中心として半導体製造工場向け搬送設備工事等が増加したことから、受注高は125億54百万円(前年同期比11.6%増)となりました。売上高は103億68百万円(同21.6%増)となり、損益面につきましては、売上高の増加により営業利益は10億94百万円(同85.2%増)となりました。



シンフォニアエンジニアリング(株)

当社製品の保守・サービス業務、公共、民間の電気工事、管工事、搬送工事等の設計施工業務及び情報機器(券売機、入退場システム等)の製造・販売・サービス業務を主要事業として展開しております。

エンジニアリング&サービス事業は、上記1社の他、保険代理業、運送業、労働者派遣業や当社グループ内の経理・給与業務を請け負うシンフォニア商事(株)、ソフトウェア開発やOA機器の販売を行う(株)アイ・シー・エスにより構成されています。

世界初のスマート自動細胞培養装置を初納入

再生医療は、ヒトの細胞の一部を用いて機能の再生をはかるもので、これまで有効な治療法がなかった疾患の治療を目指す次世代の医療です。再生医療で用いる細胞は、高品質であることはもちろん、安定して製造・供給されなければなりません。

そのような課題を解決するため、当社は全自動細胞培養装置 CellQualia™（セルクオリア） Intelligent Cell Processing（ICP） Systemを開発し、国内外向けに販売を開始しました。このたび、学校法人慶應義塾殿から2台を初受注し、殿町タウンキャンパス（神奈川県川崎市）に新設された細胞製造施設に納入いたしました。学校法人慶應義塾殿は学校法人藤田学園殿と、羽田・殿町地区を中心とした先端医療技術の社会実装、産学公連携活動の推進に向けた連携協定を締結しており、当社の装置は其中で、再生医療用の高品質な細胞の安定製造・供給に大きく貢献できるものと期待しています。

当社の装置の強みは、培養の全自動化による省力化や製造ミスの排除、完全閉鎖系による微生物汚染の防止に加え、工程を監視しながら細胞を製造することで、高品質な細胞が安定的に製造できる点にあります。当社では、細胞医薬品としてすでに広く用いられている間葉系幹細胞及び、様々な細胞に加工されて用いられるiPS細胞を用いて装置の有用性を確認し、iPS細胞については英国幹細胞バンクでの第三者検証も完了しています。

再生医療は単に医療の革新だけでなく、iPS細胞のような我が国独自の技術をもとに、国際的にも競争力のある新たな産業として発展することが期待されています。当社も再生医療は新分野として期待しており、3年後に本装置の売上高50億円を目指しています。



慶應義塾大学殿町タウンキャンパスに納入された2台の CellQualia™（自動細胞培養装置）

連結子会社の合併によるサービス強化

当社連結子会社のシンフォニアエンジニアリング株式会社は、2024年4月1日付で当社連結子会社の株式会社S & Sエンジニアリングと合併いたしました。本合併は、顧客満足度向上の観点から、両社の人材・経営資源を統合し、エンジニアリング事業を強化することで、当社グループとして、より質の高いサービスの提供を図るものです。

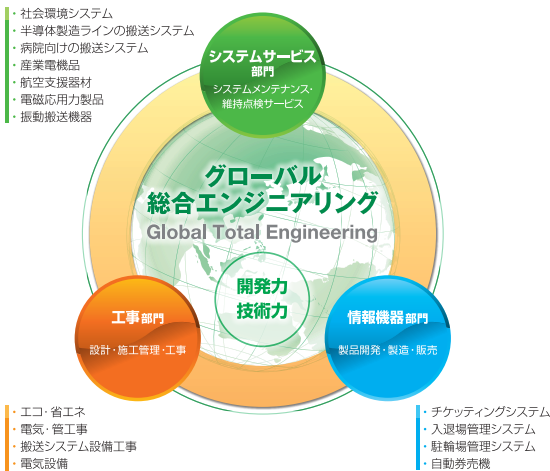
シンフォニアエンジニアリング株式会社は、当社が製造・販売した製品のアフターサービス業務を行う「システムサービス部門」、半導体製造工場向け搬送設備の設置工事や施設の電気工事・管工事などを手がける「工事部門」、そして汎用券売機、入退場システム等の製造・販売・サービス業務を行う「情報機器部門」の3事業を展開しています。

「工事部門」では近年日本、台湾、中国での半導体製造工場向け搬送設備工事の引合が増加しており、また、「システムサービス部門」では、当社が注力する半導体製造装置向け搬送機器のアフターサービス対応を拡充する方針であることから、S & Sエンジニアリングとの合併を機に人的リソースの流動性を高めることで、成長事業の工事施工能力とエンジニアリング力の増強を図ってまいります。

シンフォニアエンジニアリングが生業とするフィールドエンジニアリング事業にS & Sエンジニアリングが行っていた病院内の搬送システム分野も加えることで、さらなる事業領域の拡大を図り、2030年度には現状比1.5倍の売上高300億円を目指します。



シンフォニアエンジニアリング株式会社（本社・伊勢事業所）



連結貸借対照表 (2024年9月30日現在)

(単位：百万円)

資産の部	
流動資産	68,300
現金及び預金	8,044
受取手形、売掛金及び契約資産	32,711
商品及び製品	2,498
仕掛品	12,119
原材料及び貯蔵品	12,451
その他	570
貸倒引当金	△93
固定資産	62,100
有形固定資産	36,209
建物及び構築物（純額）	15,020
土地	15,195
その他（純額）	5,992
無形固定資産	983
投資その他の資産	24,908
投資有価証券	16,084
その他	8,899
貸倒引当金	△75
資産合計	130,401

負債の部	
流動負債	34,705
支払手形及び買掛金	17,030
短期借入金	2,170
1年内返済予定の長期借入金	3,236
未払法人税等	1,272
製品保証引当金	560
受注損失引当金	180
固定資産整理損失引当金	106
その他	10,148
固定負債	20,768
長期借入金	12,494
役員株式給付引当金	155
環境対策引当金	6
退職給付に係る負債	2,313
その他	5,798
負債合計	55,473
純資産の部	
株主資本	56,588
資本金	10,156
資本剰余金	452
利益剰余金	47,915
自己株式	△1,937
その他の包括利益累計額	18,339
その他有価証券評価差額金	8,756
繰延ヘッジ損益	△23
土地再評価差額金	3,913
為替換算調整勘定	1,283
退職給付に係る調整累計額	4,410
純資産合計	74,927
負債純資産合計	130,401

連結損益計算書 (2024年4月 1日より 2024年9月30日まで)

(単位：百万円)

売上高	51,753
売上原価	38,222
売上総利益	13,531
販売費及び一般管理費	7,788
営業利益	5,743
営業外収益	590
受取利息及び配当金	499
その他	91
営業外費用	406
支払利息	78
為替差損	220
その他	107
経常利益	5,927
特別損失	156
固定資産整理損失	156
税金等調整前中間純利益	5,770
法人税等	1,491
中間純利益	4,279
親会社株主に帰属する中間純利益	4,279

連結キャッシュ・フロー計算書 (2024年4月 1日より 2024年9月30日まで)

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	6,106
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,764
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,921
現金及び現金同等物に係る換算差額	50
現金及び現金同等物の増減額	△1,528
現金及び現金同等物の期首残高	9,572
現金及び現金同等物の中間期末残高	8,043

会社概要

会社名	シンフォニアテクノロジー株式会社
設立	1949年（昭和24年）8月
創業	1917年（大正6年）5月
資本金	101億5,696万円
従業員	3,786名（連結）
本社所在地	東京都港区芝大門一丁目1番30号 芝NBFタワー

株式の状況

発行可能株式総数	116,000,000株
発行済株式の総数	28,361,744株（自己株式1,427,378株を除く）
株主数	11,310名
大株主（上位10名）	

株主名	持株数	持株比率	
		千株	%
日本マスタートラスト信託銀行(株)（信託口）	3,417	12.05	
日本マスタートラスト信託銀行(株) （退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口）	1,835	6.47	
(株)日本カストディ銀行（信託口）	1,516	5.35	
ダイキン工業(株)	1,017	3.59	
シンフォニアテクノロジーグループ 従業員持株会	981	3.46	
シンフォニアテクノロジー取引先持株会	925	3.26	
大日本印刷(株)	732	2.58	
RE FUND 107-CLIENT AC	508	1.79	
前尾 吉信	505	1.78	
BNY GCM CLIENT ACCOUNT	457	1.61	
JPRD AC ISG (FE-AC)	457	1.61	

(注) 1. 日本マスタートラスト信託銀行(株)（退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口）の持株数1,835千株は(株)神戸製鋼所から同信託銀行へ信託設定された信託財産です。信託約款上、当該株式の議決権の行使についての指図権限は(株)神戸製鋼所が保有しております。

2. 当社は、自己株式を1,427千株保有しておりますが、上記大株主からは除いております。

3. 持株比率は自己株式（1,427千株）を控除して計算しております。

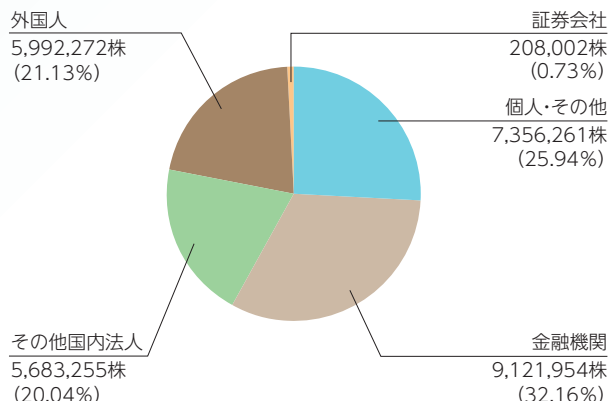
主要な営業所及び工場

支社	大阪、名古屋
支店	九州（福岡）
営業所	東北（仙台）、新潟、北陸（富山）、静岡、三重（伊勢）、中国（広島）
工場	伊勢製作所（伊勢、鳥羽）、豊橋製作所

主要な子会社の本社所在地

シンフォニア商事(株)（伊勢）
 シンフォニアエンジニアリング(株)（伊勢、東京）
 (株)アイ・シー・エス（伊勢）
 (株)大崎電業社（東京）
 シンフォニアマイクロテック(株)（明石）
 昕芙旋雅機電（香港）有限公司（中華人民共和国・香港）
 昕芙旋雅機電（東莞）有限公司（中華人民共和国・東莞）
 SINFONIA MICROTEC(VIETNAM)CO.,LTD.(ベトナム社会主義共和国・ハナム)
 SINFONIA TECHNOLOGY(THAILAND)CO.,LTD.(タイ王国・サムットプラカーン)
 昕芙旋雅商貿（上海）有限公司（中華人民共和国・上海）

所有者別株式分布状況



役員

取締役及び監査役

代表取締役会長	武藤昌三
代表取締役社長	平野新一
取締役	山国稔
取締役	坂本克治
取締役	千手裕治
取締役	幡野隆一
社外取締役(非常勤)	佐古達信
社外取締役(非常勤)	藤岡純
社外取締役(非常勤)	藤岡章
監査役(常勤)	堀悟
社外監査役(常勤)	大西健司
監査役(非常勤)	結川孝一
社外監査役(非常勤)	田村香代

執行役員

※専務執行役員	山国稔
※常務執行役員	坂本克治
※常務執行役員	千手裕治
※常務執行役員	幡野隆一
執行役員	佐伯英一郎
執行役員	林和孝
執行役員	瀬田学
執行役員	稲垣努
執行役員	相澤純也
執行役員	塩崎明
執行役員	元吉誠
執行役員	上田輝基
執行役員	臼井一哉
執行役員	土田英誉
執行役員	小倉隆志
執行役員	齋藤浩志

- (注) 1. 当社は、佐古達信、藤岡 純、藤岡章子、大西健司及び田村香代の5氏を(株)東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。
2. 上記※印の者は、取締役を兼務しております。

単元未満株式(1株~99株)買増及び買取請求のご案内

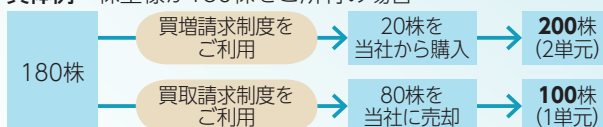
当社株式の証券市場での取引は100株単位となっており、単元未満株式を市場で売買することはできません。

当社では、「単元未満株式買増請求制度」または「単元未満株式買取請求制度」のいずれかの制度を選択してご利用いただけますので、ご案内申しあげます。

買増請求制度 株主様がご所有の単元未満株式と合わせて単元株式(100株)となるように、市場価格で当社から購入することを請求できる制度です。

買取請求制度 株主様がご所有の単元未満株式を、市場価格で当社に売却することを請求できる制度です。

具体例 株主様が180株をご所有の場合



単元未満株式の買増・買取、住所変更等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座にて管理されている株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

特別口座から一般口座への振替えについて

株券電子化に際して、証券会社等に株券を預けられていなかった株主様の株式は、三井住友信託銀行株式会社の特別口座に記録されています。特別口座に記録されている株式につきましては、株主様が保有株式の管理を簡便にするため、証券会社等の口座(一般口座)に振替えていただくことをお勧めいたします。

ご所有の株式が特別口座に記録されているかご不明の場合や、一般口座への振替えのお手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
(その他必要あるときは予め公告します。)

上場取引所 東京証券取引所 プライム市場

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

特別口座の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 TEL 0120 (782) 031 (フリーダイヤル)



シンフォニア テクノロジー 株式会社

〒105-8564
東京都港区芝大門一丁目1番30号 芝NBFタワー
TEL 03 (5473) 1800
<https://www.sinfo-t.jp>

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



この印刷物はFSC®認証紙を使用しています。 この印刷物は植物油インキで作成されています。

